

## 平成 30 年度全国剣道指導者研修会（関東ブロック・茨城県）



宮原講師（左）と神崎講師による「木刀による剣道基本技稽古法」指導の様子

平成 30 年度全国剣道指導者研修会・関東ブロック・茨城県（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝茨城県学校剣道連盟）は、12 月 8～9 日の 2 日間、茨城県武道館で、中学校保健体育科教員 28 名を含む 86 名が参加して行われた。本事業は、平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国 9 ブロックのうち、毎年 5 ブロックで開催されており、今回は今年度 4 回目の開催である。

### ■ 1 日目（12 月 8 日）

開講式では、はじめに末吉潤日本武道館振興課主任が「本研修会は、平成 24 年度から実施されている中学校武道必修化の充実のため、指導者の資質並びに指導力の向上を図り、効果的な授業が展開されることを目的としている。しっかり研修し、学校現場で活かしていただきたい」と挨拶した。

続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が挨拶に立ち、「本研修会は、毎年全国 5 ブロックで開催している。皆様方の指導力の向上が明日を担う子供たちの成長につながるので、2 日間しっかり勉強していただき、充実した剣道の授業を実施していただきたい」と述べた。

主管県からは高山陽好茨城県剣道連盟会長が「この地は江戸時代に徳川御三家の水戸藩であったことから文武不岐の精神を大切にしています。本日、関東各地からこのように多くの先生方をお迎えし、研修会を開催できることは非常に意義深いことです。本研修会が実りある研修会となることを期待しています」と歓迎の言葉を述べた。

開講式終了後、山田博子講師による「中学校保健体育科における武道（剣道）の学習について」の講義が行われた。現行学習指導要領から新学習指導要領への具体的な改正点について触れ、新学習指導要領で並列表記される柔道、剣道、相撲以外の種目を実施するための条件が説明された。

続いて、百鬼史訓講師による「安全指導について」の講義が行われた。まず、授業を行う上での教員の安全管理責任の重要性についての説明があり、続いて、竹刀の構造、管理方法、剣道具の装着方法、衛生対策などについて解説された。

続いて、花澤博夫講師による「体罰・暴力によらない指導」の講義が行われた。褒める指導について、「良い所を伸ばすことを意識した指導を心掛けること。褒めることによって生徒の良さを引き出す声掛けを意識してほしい」と述べた。また、教員の年齢が上がるほど体罰が多い傾向にあることを

示し、体罰によらない指導の重要性を説いた。

その後、中<sup>ちゆうじょう</sup>條泰宏 稲敷市立江戸崎中学校教諭による「剣道授業実践例発表」が行われた。「塩ビ管にスポンジを巻いて作った新聞紙刀による新聞紙切りなど、ゲーム感覚で仲間と楽しく学ぶことを意識して授業を展開した。また、新聞紙刀を使い、相手にタッチすることで勝敗を競う簡易試合を行った。これらは基本動作を意識しながら行うよう指導した。学習教材を工夫することによって生徒の剣道へのマイナスイメージを解消し、基本的な技能の定着を図ることができた。今後は技の攻防の質を高めるため、ICT 機器を有効に活用し、自他の姿を情報として取り入れ、攻防の展開をより追究した授業を展開したい」と発表した。

午後からは、会場を大道場に移して行われた。まず<sup>かろこめ</sup>軽米満世講師より「剣道の歴史と特性」について解説された。剣道の特性について、「相手と真剣に向き合い、相手を尊重し、相手と気を合わせること。そして、自己を律する克己心を理解させることが大切である」と説明した。

その後、山田講師による「剣道授業における体ほぐしの運動」として、「じゃんけんゲーム」「手拭いゲーム」「パートナーを探せ」が行われた。楽しむだけではなく、剣道につながる動きであることを意識しながら行うことが強調された。

続いて、岩脇司講師による「剣道の要素を感じ取らせる遊びの体験」として「新聞紙切り」「新聞紙玉打ち」「ボール打ち」が行われた。姿勢を崩さず、剣道の足さばきで行うよう説明された。

休憩後、軽米講師による「剣道に必要な動きづくり」が行われた。相手と気を合わせ、先生の出した技にすばやく反応して自分の技を出す「手刀での攻防」では、攻める、打つ、通り抜けて残心までの一連の動作を対人で行わせた。「通り抜けた後、残心を示すように」と残心の大切さを強調した。

休憩後、網代忠宏講師より「礼の考え方、礼の仕方」について、立ち方や座り方、立礼、座礼、木刀の置き方などを詳しく解説された。

続いて、宮原昇治講師と神崎浩講師により「木刀による剣道基本技稽古法（以下木刀基本）」の1～5本目を示範しながら解説された。その後、どのように練習するかを班ごとに検討した。

休憩後、軽米講師の指導のもと、「木刀基本での課題を克服するための練習方法」について班別討議が行われ、課題と練習方法を班ごとに発表した。

最後に、佐藤義則講師の指導のもと、「剣道授業の現状と課題」について班別に研究協議・発表を行い、1日目を終えた。

## ■ 2日目（12月9日）

「剣道具のない授業例（竹刀による授業例）」として、宮原講師より「竹刀の握り方」と「素振りの仕方」について、花澤講師より「打ち方、打たせ方」について解説された。

次に、佐藤講師より「音楽を活用した授業例」として「リズム剣道」が紹介された。音楽（『365日の紙飛行機』）のリズムに合わせた基本動作を班ごとに考え、それぞれ発表した。佐藤講師はリズム剣道について、「音楽に合わせて楽しく基本技を反復練習することにより、基本技の定着が図れる。ぜひ授業に取り入れていただきたい」と説明した。

続いて、岩脇講師より「剣道具の着装方法」について、神崎講師より「基本となる技の段階的指導方法」について、山田講師より「ごく簡単な試合（判定試合）」についてそれぞれ指導がなされた。

午後は、佐藤講師より「面抜き胴を題材にした判定試合」について、神崎講師より「約束練習」について、軽米講師より「打ち込み練習（かかり練習）、自由練習、ポイント制の簡易な試合」についてそれぞれ指導がなされた。

最後に岩脇講師が「指導と評価」について講義を行い、指導と評価の一体化の重要性を解説した。

閉講式では軽米講師が講評を行い、朝比奈美空 結城市立結城中学校教諭が講師への謝辞を述べ、阿部昭彦茨城県学校剣道連盟会長が主管県挨拶、網代講師が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。